

科目名	治療法概説		履修年次	1 年次
科目区分	専門基礎分野	単位数(時間)	1 単位 (25 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 疾患の診断・治療の概要を理解するとともに、治療が生体に及ぼす影響を理解する。</p> <p>目標: 1 各治療法の目的・概要を理解できる。 2 各治療法が生体に及ぼす影響を理解し、看護として適切に観察・管理する能力を養う。</p>				
授 業 計 画				
単元	時間	内 容		方法
1 外科的治療法(手術療法)	4	1 手術療法とは 2 手術療法の特徴 3 手術前検査と評価 4 手術侵襲と生体反応 5 術後合併症の管理		講義
2 麻酔法	4	1 麻酔法の基礎 2 麻酔の種類と特徴 (1) 全身麻酔と生体反応 ア 吸入麻酔 イ 静脈麻酔 (2) 局所麻酔と生体反応 ア 脊椎クモ膜下腔麻酔 イ 硬膜外麻酔 3 麻酔の周術期管理		講義
3 放射線療法	6	1 放射線療法概論 (1) 放射線の種類 (2) 放射線防護 (3) 有害事象 2 放射線診断 (1) X 線検査 (2) CT (3) MRI (4) 核医学検査(RI・PET 検査) (5) 超音波検査 3 放射線治療の種類と対象		講義
4 リハビリテーション療法	4	1 リハビリテーションの目的 2 リハビリテーションの方法 (1) 理学療法 (2) 作業療法 (3) 言語療法		講義
5 がん薬物療法(化学療法)	6	1 がん薬物療法(化学療法)の基礎 (1) がん薬物療法(化学療法)の原理と作用機序 ア 細胞障害性抗がん薬 イ 分子標的薬 2 がん薬物療法(化学療法)による副反応(有害事象)と合併症 3 がん薬物療法(化学療法)の標準治療計画(レジメン) 4 抗がん薬を取り扱う者の曝露対策		講義

試験	1	
評価方法	筆記試験	
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) 臨床病態学 総論 (ヌーヴェルヒロカワ) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論 (医学書院)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。	
履修上の 留意事項	・各看護学領域で学習する、疾患に関する治療・看護の基礎的知識である。予習のうえ、授業に臨むこと。 ・積極的な学習姿勢を臨む。	

科目名	疾病治療論 I		履修年次	1 年次
科目区分	専門基礎分野	単位数(時間)	1 単位 (30 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 病気の原因、臓器・組織の形態や機能の変化と、これらに必要な診断・治療の概要及び病気・治療が生体に与える影響を理解する。</p> <p>目標: 1 病気の原因と臓器・組織の基本病変を理解できる。 2 形態・機能に起こる病態と診断法・治療法を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単元	時間	内 容		方 法
1 呼吸器系 のおもな疾患 の病態・診断・ 治療	8 (2) (6)	1 外科的治療を主とする疾患 (1) 肺がん (2) 自然気胸 2 内科的治療を主とする疾患 (1) 感染症 ア インフルエンザ イ 結核 ウ COVID-19 (2) 間質性肺炎 (3) 慢性閉塞性肺疾患(COPD)		講義
2 循環器系 のおもな疾患 の病態・診断・ 治療	10	1 心臓疾患 (1) 虚血性心疾患 ア 狭心症 イ 心筋梗塞 (2) 弁膜症 (3) 心不全 (4) 不整脈 2 血管系疾患 (1) 大動脈瘤 3 血圧異常 ア 高血圧		講義
3 脳神経系 のおもな疾患 の病態・診断・ 治療	11	1 脳疾患 (1) くも膜下出血 (2) 脳出血 (3) 脳梗塞 (4) 脳腫瘍 2 末梢神経障害 (1) ギラン・バレー症候群 3 神経・筋疾患 (1) 重症筋無力症 (2) 筋ジストロフィー症 (3) 筋萎縮性側索硬化症(ALS) 4 脱髄・変性疾患 (1) 多発性硬化症		講義
試験	1			
評価方法	筆記試験			

<p>必須資料 (テキスト)</p>	<p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学② 呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学③ 循環器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑦ 脳・神経 (医学書院) 目で見るとからだのメカニズム (医学書院)</p>
<p>参考資料</p>	<p>・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。</p>
<p>履修上の 留意事項</p>	<p>・もともとの臓器の形態機能(解剖生理学Ⅰ)の理解のもとに、対象の看護に必要な科目である。解剖生理学Ⅰを十分に復習のうえ、授業に臨むこと。 ・授業の際は、系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学のテキスト・授業資料等を持参すること。 ・複数の講師が担当するので、出欠席は自己管理のうえ、体調管理に努め、欠席しないように授業に臨むこと。 ・なお、授業の後は復習しておくこと。</p>

科目名	疾病治療論Ⅱ		履修年次	1 年次
科目区分	専門基礎分野	単位数(時間)	1 単位 (30 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 病気の原因、臓器・組織の形態や機能の変化と、これらに必要な診断・治療の概要及び病気・治療が生体に与える影響を理解する。</p> <p>目標: 1 病気の原因と臓器・組織の基本病変を理解できる。 2 形態・機能に起こる病態と診断法・治療法を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 消化器系 のおもな疾患 の病態・診断・ 治療	8 (4) (2) (2)	1 外科的治療を主とする疾患 (1) 食道がん (2) 胃がん (3) 大腸がん (4) 直腸がん (5) 肝がん (6) 胆石症 胆嚢炎 (7) 膵がん 2 内科的治療を主とする疾患 (1) 胃十二指腸潰瘍 (2) 潰瘍性大腸炎 (3) クローン病 (4) 肝炎(急性・慢性) (5) 肝硬変症 (6) 膵炎(急性・慢性)		講義
2 代謝内分 泌系のおもな 疾患の病態・ 診断・治療	5	1 内分泌疾患 (1) 下垂体の疾患 (2) 甲状腺の疾患 (3) 副甲状腺の疾患 (4) 副腎疾患 2 代謝疾患 (1) 糖尿病 (2) 高脂血症 (3) 尿酸代謝障害 (4) メタボリックシンドローム		講義
3 腎・泌尿 器・男性生殖 器系のおもな 疾患の病態・ 診断・治療	8 (4) (4)	1 内科的治療を主とする腎疾患 (1) 腎不全(急性・慢性) (2) 慢性腎臓病(CKD) (3) 糸球体腎炎 (4) ネフローゼ症候群 (5) 腎実質腫瘍 2 尿路・男性生殖器の疾患 (1) 感染症 ア 腎盂腎炎 イ 膀胱炎		講義

科目名	疾病治療論Ⅲ		履修年次	1 年次
科目区分	専門基礎分野	単位数(時間)	1 単位 (30 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 病気の原因、臓器・組織の形態や機能の変化と、これらに必要な診断・治療の概要及び病気・治療が生体に与える影響を理解する。</p> <p>目標: 1 病気の原因と臓器・組織の基本病変を理解できる。 2 形態・機能に起こる病態と診断法・治療法を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 血液・造血器系のおもな疾患の病態・診断・治療	6 (2) (4)	1 造血器腫瘍 (1) 白血病(急性・慢性、骨髄性・リンパ性) (2) 悪性リンパ腫 (3) 多発性骨髄腫 2 赤血球の異常 (1) 鉄欠乏性貧血 (2) 再生不良性貧血 3 出血性疾患 (1) 特発性血小板減少性紫斑病 (2) 血友病		講義
2 骨・関節系のおもな疾患の病態・診断・治療	11 (8) (3)	1 外傷性疾患 (1) 骨折 (2) 脱臼 (3) 捻挫および打撲 (4) 脊髄損傷 (5) アキレス腱断裂 (6) 半月板損傷 2 内因性疾患 (1) 骨・関節の炎症性疾患 : 変形性関節症(股関節・膝関節) (2) 骨腫瘍 (3) 脊椎の疾患 : 椎間板ヘルニア		講義
3 免疫系・アレルギーのおもな疾患の病態・診断・治療	6 (2) (2) (2)	1 膠原病 (1) 全身性エリテマトーデス (2) 関節リウマチ (3) シェーグレン症候群 (4) ベーチェット病 2 アレルギー性疾患 (1) 薬物アレルギー (2) アナフィラキシー 3 感染症 (1) HIV 感染症 (2) 日和見感染症 (3) 多剤耐性菌感染症		講義

4 感覚器系 のおもな疾患 の病態・診断・ 治療	6 (2) (2) (2)	1 耳鼻咽喉疾患 (1) 耳疾患:中耳炎、メニエール病 (2) 鼻疾患:副鼻腔炎、ウエゲナー肉芽腫症、上顎がん、 アレルギー性鼻炎 (3) 咽喉頭疾患:喉頭炎、上咽頭がん、声帯ポリープ、喉頭がん 2 眼疾患 (1) 緑内障 (2) 白内障 (3) 網膜疾患:網膜剥離 3 歯・口腔疾患 (1) 齲歯 (2) 歯周疾患:歯周病	講義
試験	1		
評価方法	筆記試験		
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門分野 成人看護学④ 血液・造血器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑩ 運動器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑪ 免疫アレルギー膠原病感染症 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑬ 眼 (医学書院) 臨床病態学 3巻 (ヌーヴェルヒロカワ) 目でみるからだのメカニズム (医学書院)		
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。		
履修上の 留意事項	・もともとの臓器の形態機能(解剖生理学Ⅱ)の理解のもとに、対象の看護に必要な科目である。解剖生理学Ⅱを十分に復習のうえ、授業に臨むこと。 ・授業の際は、系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学のテキスト・授業資料等を持参すること。 ・複数の講師が担当するので、出欠席は自己管理のうえ、体調管理に努め、欠席しないように授業に臨むこと。 ・なお、授業の後は復習しておくこと。		

科目名	微生物学		履修年次	1 年次
科目区分	専門基礎分野	単位数(時間)	1 単位 (15 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 微生物の特徴と人間の健康に及ぼす影響及び対応について理解する。</p> <p>目標: 1 微生物の種類と性質の理解を深める。 2 感染と感染防御を理解できる。 3 病原微生物が生体に及ぼす影響を理解できる。</p>				
授業計画				
単元	時間	内容		方法
1 微生物学の基礎	2	1 微生物学の基礎 (1) 微生物の性質 (2) 細菌・真菌・原虫・ウィルスのそれぞれの性質と特徴		講義
2 感染とその防御	4	1 感染に対する生体防御機構 (1) 自然免疫のしくみ (2) 獲得免疫のしくみ (3) 粘膜免疫のしくみ (4) 徴候と症状 2 感染源・感染経路からみた感染症 (1) 経口感染 (2) 経気道感染: 空気感染・飛沫感染 (3) 接触感染 (4) 垂直(母児)感染 3 感染症の予防 (1) バイオハザードとバイオセーフティ (2) 滅菌と消毒 (3) ワクチンと予防接種 4 感染症の治療 (1) 化学療法の基礎 (2) 薬剤耐性 (3) 各種化学療法薬 5 感染症の現状と対策		講義
3 おもな病原微生物と感染症	8	1 病原細菌と細菌感染症 (1) グラム球菌 : 陽性球菌と陰性球菌 (2) グラム桿菌 ア 陽性桿菌 イ 陰性好気性桿菌 ウ 陰性通気性桿菌 (3) カンピロバクター属とヘリコバクター属 (4) 抗酸菌と放線菌類 (5) 嫌気性菌 (6) スピロヘータ (7) マイコプラズマ (8) リケッチア目 (9) クラミジア科		講義

		2 病原真菌と真菌感染症 3 病原原虫と原虫感染症 4 ウィルスとウィルス感染症	
試験	1		試験
評価方法	筆記試験		
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進④ 微生物学 (医学書院)		
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。		
履修上の 留意事項	・疾病治療論Ⅲ(感染症)や、看護基本共通技術Ⅰ(安全・感染予防の技術)につながる科目である。予習・復習のうえ、授業に臨むこと。		

科目名	看護栄養学		履修年次	1 年次
科目区分	専門基礎分野	単位数(時間)	1 単位 (15 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 人間が健康を保持・増進し、疾病の予防、健康を回復するために必要な栄養の基礎的知識を理解する。</p> <p>目標: 1 現代人の栄養状態や望ましい栄養状態について理解できる。 2 発達段階や、健康を回復するために必要な栄養の特徴を理解できる。 3 現代人の食生活上の課題や、今後の栄養に関する展望を理解できる。</p>				
授業計画				
単元	時間	内容	方法	
1 健康と栄養	4	1 食生活の変遷と栄養状態 (1) 日本人の食事摂取基準 (2) 生活活動を支える栄養の量 ア 推定エネルギー必要量 イ 発達段階毎の基礎代謝量 ウ 病人の推定エネルギー必要量 (3) 生活活動を整える栄養の質 ア 発達段階に応じた推奨量 2 長寿と栄養 3 運動と栄養 4 栄養補助食品の活用	講義	
2 健康回復のための栄養	8	1 子どもと栄養 (1) 肥満のある子どもの栄養 (2) 食物アレルギーのある人の栄養 2 成人と栄養 (2) 胃炎のある人の栄養 (3) 肝炎のある人の栄養 (4) 糖尿病のある人の栄養 3 高齢者と栄養 (1) 骨粗鬆症のある人の栄養 (2) 褥瘡のある人の栄養 4 女性と栄養 (1) 貧血のある人の栄養 (2) 妊娠高血圧症候群のある人の栄養	講義	
3 セルフケアと食	2	1 食育の目的・方法 2 食習慣をつくる健康教育 3 食行動変容を促す患者教育 4 食生活自立への援助 5 ヘルスプロモーションと食 (1) ヘルスプロモーションに基づく食 (2) 健康日本 21 と食 6 現代人の食生活の課題	講義	
試験	1			

評価方法	筆記試験
必須資料 (テキスト)	看護栄養学（医歯薬出版） 栄養素の通になる（女子栄養大学出版部）
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。
履修上の 留意事項	・生化学や解剖生理学とつながる科目である。予習・復習をして授業に臨むこと。 ・また、各看護学の対象への栄養指導に関連する科目のため、積極的な学習姿勢を望む。

科目名	薬理学		履修年次	1 年次
科目区分	専門基礎分野	単位数(時間)	1 単位 (25 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 人体における薬物動態と薬理作用を理解し、薬物を適切に管理・対象への適用ができる能力を養う。</p> <p>目標: 1 薬物療法の意義と看護師の役割を理解できる。 2 薬物の概念と人体への作用機序と有害作用を理解できる。 3 薬物の取り扱い方と管理の方法を理解できる。 4 薬物の作用と適用を、疾病の成り立ちと関連させて、総合的に理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 薬理学総論	8	1 薬物療法の目的 2 薬理作用 3 薬物動態と薬効(吸収～排泄) 4 薬効に影響を及ぼす要因 5 薬の有害作用 6 薬の適用 7 薬務法 (1) 薬事法 (2) 毒物及び劇物取締法 (3) 麻薬及び向精神薬取締法 8 薬物療法における看護師の役割 9 看護業務に必要な薬の知識(単位、処方せん、添付文書)		講義
2 おもな薬物の作用機序と適用法、人体への影響	14	1 感染症薬 2 抗悪性腫瘍薬 3 免疫治療薬、抗アレルギーおよび抗炎症薬 4 末梢神経系作用薬 5 中枢神経系作用薬 6 心臓・血管系作用薬 7 呼吸器系作用薬 8 消化器系作用薬 9 生殖器系作用薬 10 代謝作用薬 11 外用薬(皮膚科用薬、眼科用薬) 12 救急の際に使用する薬 13 漢方薬 14 消毒薬		講義
3 特殊な薬物療法	2	1 輸液(高カロリー輸液を含む) 2 輸血用血液製剤		講義
試験	1			
評価方法	筆記試験			

必須資料 (テキスト)	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学 (メディカ出版)
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。
履修上の 留意事項	・薬物療法の管理や服薬指導、対象の副反応の観察等、看護に深くかかわる学問であるため、予習・復習のうえ、積極的な学習姿勢を望む。